

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 月 日

評価対象事業		評価者	こども支援課担当課長 正木 照雄		
こども-03	実施事業	地域子育て支援拠点事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	こども支援課
	まち・ひと・しごと		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	こども相談課
総合計画上の位置付け	分野	子育て	施策の方針	すべての子育て家庭への支援	

1 事業の目的

対象	子育て家庭等
意図	子育てに関する多様なサービスや情報を提供することによって、ゆとりある子育て環境をつくるため。
効果	子育て家庭に対し情報提供や育児相談に応じ、育児不安などの解消を目指す。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

・子育て中の親子に対し身近に集える場(つどいの広場)を提供し、親子同士が気軽に交流できるようにした。
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算	01年度(2019年度)決算	データ区分	02年度(2020年度)当初予算	備考
人口等のデータ	人口	176,308人	人口	176,608人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世帯数	81,763世帯	82,444世帯	世帯数	
運営資源状況	事業の対象者数		事業の対象者数		
	決算値(千円)	2,946	2,368	当初予算(千円)	2,194
	国県支出金	1,988	1,295	国県支出金	1,346
	地方債			地方債	
	その他			その他	
	一般財源	958	1,073	一般財源	848
	人員配置数	1.5	1.5	人員配置数	1.0
事業経費運営	人件費(千円)	11,514	12,074	人件費(千円)	8,606
	総事業費(千円)	14,460	14,442	総事業費(千円)	10,800
	市民1人当りの経費(円)	82	82	市民1人当りの経費(円)	61
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)	

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、ブルダウンドで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有効性	事業の成果は得られているか	3. 十分な成果が出ている
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-2. 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 △-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない
事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒	見直しの種類 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他
		見直しの内容 事業へ統合
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 腰越地域は子育て支援センターが未設置であるため、腰越つどいの広場を継続して実施する。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	各地域に1か所の子育て支援センターの整備を目指しているが、現時点で設置のない腰越地域においては、腰越行政センターでつどいの広場を実施している。子育て中の親子に対して身近に集える場所を提供し、親子同士が交流できるようにするためにも、継続してつどいの広場を運営していく必要がある。	

令和元年度(2019年度)事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	つどいの広場で実施している子育て等についての相談業務について、受託者と密に連絡をとる必要がある。	
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	相談業務についての内容報告書(日誌)をもとに、関係各課への連絡や引継ぎを行っている。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	更なる相談業務の充実のためにも、より連携を強化した連絡体制の構築が必要である。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	交流広場・子育てサロン等事業(つどいの広場)実施状況								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	横浜市	川崎市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	○	○	○	○	○	○	○	○	○

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	交流広場・子育てサロン等の事業は多くの市町村が実施しているが、手法や開催時間、開催場所等については様々である。本市においても、開催場所や人員等の条件を踏まえた上で、有効な手法を検討していく必要がある。
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	子育て支援センターの無い地域におけるつどいの広場の開設状況						単位	地域	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
各地域においてサービスの平等性を担保するため。	目標値	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0				
	実績値	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0				
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%				

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	腰越つどいの広場については、引き続き、親子同士が気軽に交流できる場としての利用率向上を目指して事業を実施していく。
-----------------------	---